

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長氏名	笹口 由美子	生徒指導主事氏名	北野 茂樹
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『文化祭』

取組のねらい 『共感的人間関係の育成』

○全校生徒が、クラスや学年、組集団や部活動などの様々な場において協力して取り組み、一つのものを創り上げる苦労や喜び、達成感を味わうことで、共感的人間関係を育成する。



取組の具体的内容 『集団の協力』

【大竹中学校文化祭「いのち 輝け～つながる想い 心ふるえる瞬間～】

○ステージ発表

- ・ 1, 2年生各クラスによる合唱コンクール
- ・ 3年生各クラスによる演劇発表
- ・ 学年合唱と全校合唱
- ・ 部活動の発表（吹奏楽部によるステージ発表）
- ・ 芸術鑑賞（今年度は、大竹一番太鼓：地域の和太鼓演奏グループ、本校生徒、卒業生が所属）



○展示発表

- ・ 各教科の発表（総合的な学習の時間、国語科、技術・家庭科等）
- ・ 部活動の発表（美術部・ものづくり部による展示発表）
- ・ 特別支援学級の作品展示

取組の課題・創意工夫 『縦割り集団の活用』

○生徒会執行部、パートリーダー、監督（演劇）、部長等を中心とした主体的な活動になるように、年度当初からリーダー育成を意識した学年・学級づくり、部活指導を行っている。また、練習・準備の過程で、教員が声かけや援助、評価等を生徒の主体性を尊重しながら行っている。

○練習・準備の過程で、クラス間、組集団同士の間接発表や教え合いを行い、互いを高め合ったり、先輩のアドバイスをその後の練習に生かしたりするようにしている。

○各学年・学級のリーダーの育成が課題。



取組の成果（効果）『達成感、自己肯定感・存在感』

- リーダーを中心とした取組を進め、合唱や演劇等をやりきった達成感を味わうことができた。
- クラスの協力やクラス間、組集団の交流の成果が当日の発表に現れ、生徒の自己肯定感・存在感につながっている。
- 練習・準備過程の交流や文化祭終了後の組集団同士のメッセージプリントの交流により、共感的人間関係が育まれている。



今後の展開『発展』

- 大竹中のこれまでの伝統を守りつつ、さらなる発展をめざし、学級、学年、全校のリーダーの育成、リーダーを中心に全員が協力して取り組む体制づくりを進めていく。そのために、生徒たちに活躍の場を与え、その活動を教師が評価をすること、そして生徒にかかわり、やる気を喚起すること、サポートすることを意識する。



他校へのアドバイス 『教員の意識統一』

- 生徒指導（特別活動）を進めて行く上で、教員の意識統一が重要である。特別活動の取組のねらい（何のために）を明確にし、教員がそのねらいを常に意識し、同時に生徒にも意識させる。また、ねらいを達成するために、事前・事後の指導を充実させる。
- クラス間、縦割り集団の交流が有効である。
- 課題として、生徒が自分の頑張りを広く地域に情報発信するとともに、地域からのフィードバックがもらえるような工夫をすることが必要である。そうすることで、生徒の満足感や達成感、自己有用感も高まり、学校と地域の結びつきも深まると考える。